山口県病院協会会報

2021 4月号 No.71

●発行日　令和３年４月１日
●発行所　一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814　山口市吉敷下東三丁目1番1号
●電話　083-923-3682
●FAX　083-923-3683
●発行人　三浦　修
●印刷所　大村印刷株式会社
●メールアドレス　info@yha.or.jp
●ホームページ　http：//www.yha.or.jp

医療法人周友会　徳山病院

〒754-0868
住　所　　周南市南浦山町５番14号
電　話　　０８３４－２１－３７５０
ＦＡＸ　　０８３４－２１－０４８２
URL：https://tokuyama-hp.jp/

CONTENTS（目次）

会員病院紹介…… ２ページ
協会役員コーナー…… ３ページ
病院スタッフコーナー…… ４～５ページ
トピックスコーナー・部会コーナー…… ６ページ
諸会議報告…… ７ページ
お知らせコーナー…… ８ページ

会員病院紹介

理事長挨拶

医療法人周友会
徳山病院
理事長　高山　成吉

当院は、昭和27年に企業立病院として徳山曹達健康保険組合が開設いたしました。平成23年より他医療法人を経て当会が事業を承継致しまして、現在に至ります。平成26年、私が理事長を拝命して以来、徳山病院を地域に求められる診療体系（地域包括ケアミックス）へ変革させる為、積極的に地域に耳を傾け、また職員とも幾度となく話し合いを行なって参りました。

この度、令和２年10月にお陰様で念願の新病院を開業致しました。外観は陶器のような重厚な色調で、内部は単色でなく大自然の色調とし、外来は優雅で落ち着いた空間としました。患者様からも、「美術館にいるようで待ち時間が苦にならない」と好評を頂いております。床は弾力性の高い素材を使用し、転倒骨折なども減り、医療安全面においても安心の生活空間となっています。最上階にはサービス付き高齢者向け住宅を新設、医療・生活をシームレスに提供でき、ご家族から「病院と併設のおかげで、安心」とのお言葉を頂いています。他にも、訪問介護ステーション、訪問看護ステーションも立ち上げ、介護保険事業の強化も図って参ります。

外来診療も拡充し、内科、循環器科、消化器科に加え、現在大学病院のご厚意により、山口大学病院より消化器科、九州大学病院より感染症科、リウマチ膠原病科などの先生方にも勤務して頂いています。

これからも、地域の皆様に「この病院でよかった。この先生・この看護師さんでよかった。」と思って頂ける様、常に市民の皆様の目線で考え、職員一丸となって邁進して参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

〈病院の現状〉

１）概要

名　称　医療法人周友会　徳山病院
開設者　理事長　高山　成吉
所在地　山口県周南市南浦山町５番14号
ＴＥＬ　0834-21-3750
ＦＡＸ　0834-21-0482
E-mail　tokuyama@tokuyama-hp.jp
ＵＲＬ　https://tokuyama-hp.jp/
病床数　病院78床
　　一般病床　78床（地域包括ケア病床78床）
診療科　内科、循環器内科、消化器内科、リハビリテーション科、
　　放射線科、リウマチ科、緩和ケア内科

２）沿革

昭和27年３月　徳山曹達健康保険組合により
　　「徳山病院」として開設
昭和39年12月　徳山曹達株式会社（現 株式会社トクヤマ）へ
　　移管
平成17年１月　株式会社トクヤマより経営譲渡
平成23年６月　医療療養病棟開設
平成26年２月　「医療法人 周友会」として診療開始　現在に至る
令和２年10月　新築移転　78床全て一般病棟に転換

３）特徴

徳山病院は、半世紀以上も前に企業立の病院として発足し、平成26年より医療法人「周友会」が運営を担っています。 当院はこれまで周南地域の医療機関との橋渡し的存在として地道に活動を続けながら、住民の皆さまの健康を守ってまいりました。 度重なる医療制度の変遷、医学・医療の発展と共に、社会が求める医療も刻々と変化する中、現在の病棟体制への移行を選択し、地域の皆様を幅広く受け入れる体制を整備してまいりました。今後も、患者さんへのきめ細かい配慮を忘れることなく、医療提供体制の更なる充実を図っていきたいと考えています。

協会役員コーナー

世界の中でのアジア人

医療法人和同会
片倉病院
理事長　髙橋　幹治

コロナ禍、東日本大震災から10年での復興状況、自然災害多発、オリンピック開催可否、米中関係悪化から紛争への危機が危惧されています。

15年位前、南アフリカ共和国ケープタウンで研究会がありシンガポールから航空機で向かっていました。同じキャビンには強面の男性と私の２人だけで、その男性に複数の若い男性がひっきりなしにご機嫌伺い？に来ておりシンガポールの富豪かなと思っていました。キャビンアテンダント（CA）にどんな人か問うと中国の要人とのこと。中国湖北省のSECRETARY（長官・書記）でCAを介して気さくに話してくれました。ヨハネスブルグで所用があるとの事でそこで降機。武漢医科大学への招聘状も書いて下さり、最後に２ショット写真をお願いしましたがNGでした。

中国は国策として省の長官等、国の要人がアフリカ各国との連携を任されている様です。200～100年くらい前に英・仏などがアフリカ各国を植民地としました。同様な事をインフラ整備や経済協力といった名目で今度は中国がアフリカ取り込みを図っている様です。武漢医科大に数日訪問したいと山口大学医学部の中国人留学生に協力してもらいましたが時間が無く諦めました。

コロナ禍で「中国（武漢）ウイルス」と流布され世界各地でアジア人に対して暴行などの差別が起こっているのは悲しい事です。BTSや映画パラサイトなどエンタメ業界での成功で世界的にアジア人への親近感・好感度が増している今だからこそ、折り合いよく世界が調和する事を望んでやみません。

地域医療構想における自院の立ち位置

玉木病院
病院長　玉木　英樹

新型コロナウィルスのワクチン接種実施の時期が漸く訪れ、少しの安堵とさらなる緊張感を持って病院運営に取り組んでおります。

当院では、今まで救急医療に特化し、昼夜問わず急性期医療に注力してきましたが、地域医療構想、中核病院形成の流れもあり、５年後に検討していた回復期への移行を繰り上げ、現在進めております。回復期への移行として、2020年10月に「訪問看護ステーション」を開設し、2020年11月に「在宅療養支援病院」を届出しました。救急指定病院としてこれまで培った救急医療を継続しながら、積極的な回復期医療に取り組み、高齢者救急を充実させ、在宅患者の早期の受け入れ、在宅復帰を実現できるよう日々努めております。さらに活動範囲を広げ、離島にも車とアパートを準備し、僻地診療所の先生方との遠隔医療での連携を模索しています。萩市には医療従事者が常駐しない離島もあり、ご自宅での看取りができず、最後は住み慣れた島から我々の病院に移動されて亡くなられております。その看取りの文化を変えるという大きな夢を、自治医大の先生方や保健師方と一つの事業として取り組んでおります。

また、潜水病の専門医として、「今日の治療指針2018年度」に続き、この度、2022年度についても執筆し、潜水医療の足掛かりを長門地区と定め、毎週、訪問診療を行いながら、人脈を広めています。

最後に、コロナ禍において回復期への舵取りが行えたのも、窮屈な生活により多くのストレスを抱える中、日々尽力する職員のお陰である為、感謝の気持ちを形に変えて伝えられたらと考えております。

病院スタッフコーナー

院内感染防止対策委員として

医療法人恵愛会
柳井病院
臨床検査技師
荒木　詠子

当院は1956年に開院、職員9名で発足しましたが、現在は、精神・神経科、内科、小児神経発達外来の診療科を持ち、200名以上の職員が働いております。

私は、臨床検査技師として検査部に入職しましたが、当院は血液検査を外注しており、検査技師としての検査業務よりも他の仕事を多く行っております。その一つとして、院内感染防止対策委員としての業務があります。

この一年、新型コロナウイルス感染症の影響で、マスク不足から始まり、アルコール消毒剤、滅菌・非滅菌手袋の不足など、今まで想像していなかった事態に直面しています。新型コロナウイルス感染症への対策に加え、その他の感染症対策にも個人防護具を使用するため、限られた在庫でやりくりするために、職員全員の理解と協力は欠かせません。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、外来玄関での検温を行っております。初めは非接触体温計を使用してスタッフの手により検温を行っておりましたが、なるべく来院者と接触する機会をなくすために、「カメラ付き自動検温器」を導入し、検温時にアルコール手指消毒をしてもらうと同時に、問診にもお答えいただき、「院内に持ち込まない」ための対策をしております。

除菌・消毒・手洗い・マスクなど、目に見えない物への対策は徹底と継続が難しいと感じていました。しかし、今シーズン、インフルエンザの発生が抑えられており、各個人の感染に対する意識の現れではないかと思います。これからも、職員と患者さんの感染防止対策に励んでいきたいと思います。

排尿ケアチームのリハ職として

一般社団法人徳山医師会
地域医療支援病院オープンシステム
徳山医師会病院
作業療法士
主任　筒井　太一

2016年度の診療報酬改定で「排尿自立指導料」が新設され、2020年度の診療報酬改定に「排尿自立支援加算」となり、算定期間の上限が6週/週1回から12週/週1回へ、回復期病棟や地域包括ケア病棟でも算定可能となりました。さらに「外来排尿自立指導料」が新設され入院からの継続した排尿支援が可能となりました。

当院では、2019年1月に排尿ケアチームを立ち上げ、2019年6月より排尿自立指導料の算定を行っています。排尿ケアチームは、医師、看護師、作業療法士で構成されており、各病棟にリンクナースが配置されています。

排尿ケアチームのリハ職として、排泄に関連する動作能力や訓練内容の把握、排泄動作方法や排尿形態の検討、排尿に関する環境調整や器具の使用方法の検討を患者さんの担当リハビリスタッフと情報交換や共有しつつ行っています。

排尿ケアチームにリハ職が入ることで、動作能力から生活でできる排泄動作の検討や、下部尿路機能を意識したリハビリや過ごし方が行えると思います。また、排尿ケアに多職種が関わることで、同じ目標に向かって取り組めると思います。

患者さんの活動・参加を促すうえで排尿管理は重要な視点であると思います。排尿ケアチームのリハ職の役割として何が出来るのか悩むことも多く、医師や看護師の知識や視点に気づきや学びが多い現状ですが、少しでも患者さんの生活の幅を広げることが出来るよう努めて行きたいと思います。

病院スタッフコーナー

コロナ渦での患者・家族支援

医療法人清和会
吉南病院
病棟師長
藤田　学

私は精神科単科の病院である吉南病院に入職して23年目になります。５年前に病棟看護師長になり認知症治療病棟に異動になったのは１年前の事です。精神一般病棟に勤務していた時は、病状のため家族関係が疎遠になっているケースもあり、面会は多いとは言えませんでしたが、今の病棟では、多くのご家族が面会に来られていました。

しかし、昨年の初め頃から新型コロナウイルス感染が流行し病院もその対応に追われ、面会の制限を余儀なくされることになりました。ご家族の不安・心配事を少しでも軽減できるよう、患者様の様子や状況・知りたい情報を電話でお伝えしたり、タブレットでのオンライン面会も実施してきました。しかしながら、県内各地でクラスターが発生するなど、病院をめぐる環境もより厳しさを増し、現在は感染対策をより強化するためオンライン面会も中止になっています。今まで当たり前のように出来ていた面会環境が一変したことにより、ご家族に会えないことへの不安や声を聴けないことが患者様の病状にも大きく影響を及ぼしていると感じています。

患者様がご家族と会われていた時の表情や言動を思い出すと、面会によるご家族の刺激が本人の病状に安定をもたらす力の強さを今更ながら認識させられます。

コロナ渦で大変な状況が続いていますが、面会が一日でも早く再開できることを念じながら、これからも患者様・ご家族に寄り添う姿勢を大切にして業務に励みたいと思います。

３年後の建替えをめざして

医療法人生山会
斎木病院
経理課長
松村　秀明

斎木病院は、昭和42年（1967年）に医療法人　生山会として発足し、令和３年（2021年）現在、斎木病院（一般病床46床、療養病床44床）、たわらやま診療所・たわらやま介護医療院46床（旧俵山病院）、介護老人保健施設かつら苑50床を擁して、長門地域の医療・福祉業務に携わっています。

私自身は、10年前の平成23年（2011年）４月に入社して以来、医事課業務、オーダーリングシステム導入業務、総務・経理業務を経て、令和元年５月より現職を務めています。

2019年、経理課長に就任するにあたりまして、法人の経営が大変厳しい状況にありましたので、新理事長、顧問弁護士、顧問税理士、顧問社労士、メインバンクと緊密に話し合いを進めていきながら、人員整理及び経費の削減、就業規則の改定など推し進めていきました。まだ、改革の途中ではありますが、結果としては、スタッフ全員のおかげで、１年で経営状態を立直し、人員の増強、医療機器への投資が可能な段階まで成長しました。

2020年、2021年は新型コロナウイルスの流行など、世界的にも大変な状況になり、当院も予期せぬ事態に陥りましたが、この危機を乗り越え、築53年を迎えた斎木病院の建物を新しい魅力のある病院に生まれ変わらせて、地域の方に愛され、職員が快適に働くことが出来る病院作りに貢献出来るよう、日々務めていく所存であります。

トピックスコーナー

令和３年度経済センサス－活動調査へのご協力のお願い

総務省と経済産業省は、令和３年６月１日現在で、「経済センサス-活動調査」を実施します。
この調査は、政府の重要な調査で、統計法に基づく回答義務のある基幹統計調査です。

《調査の目的》
全産業分野の売上（収入）金額や費用などの経理項目を同一時点で網羅的に把握し、我が国における事業所・企業の経済活動を全国的及び地域別に明らかにすることを目的としています。

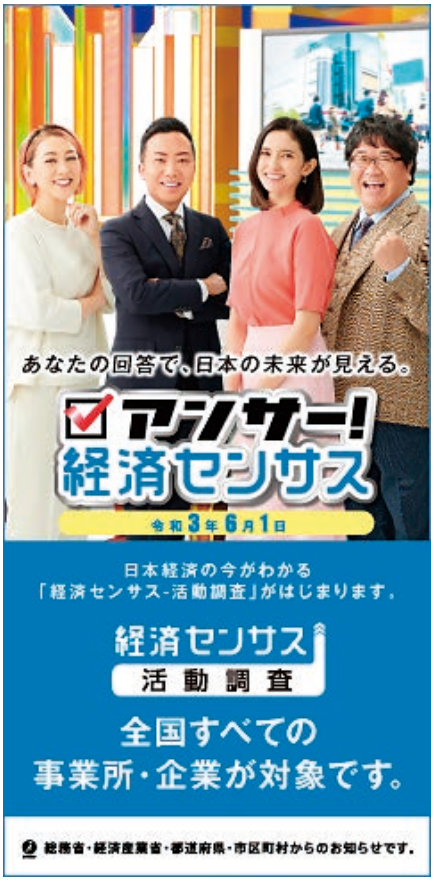
《調査の期日》
令和３年６月１日現在

《調査の対象》
全国すべての事業所及び企業

《調査事項》
基礎項目：名称、所在地、経営組織、従業者数、事業内容など
経理項目：売上（収入）金額、費用総額、費用項目、資本金等の額など

《調査票の配布方法》
調査票は、令和３年５月中に、都道府県知事が任命した調査員がお伺いして直接配布するか、国から郵送します。

調査へのご理解・ご回答をよろしくお願いします。



事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会　第２回常任幹事会

日　　時　令和３年１月15日（金）14：00～15：00
開催場所　山口県総合保健会館　第２研修室

【協議事項】
１．令和２年度、令和３年度事務長部会の活動について
２．令和３年度役員改選について
３．その他

諸会議報告

令和2年度　総務委員会

日　　時　令和3年1月15日（金）15：30～17：00
開催場所　山口県総合保健会館　第2研修室
【議　　事】
1．令和3年度県選奨受賞候補者の選定について
2．令和3年度県知事表彰（看護職員）推薦について
3．令和3年度県知事表彰（救急医療）候補者選定について
4．令和3年度病院優良職員の表彰（山口県病院協会会長表彰）について
5．令和3年度山口県病院協会事業計画（案）について

【その他】

令和2年度　第4回情報管理委員会

日　　時　令和3年3月16日（火）15：30～17：00
開催場所　山口県総合保健会館　第2研修室
【協議事項】
1．4月号の発行について
2．7月号の発行準備について
3．その他

令和2年度　第3回理事会

日　　時　令和3年3月19日（金）15：00～17：00
開催場所　山口グランドホテル
【議事次第】
1．一般社団法人山口県病院協会令和3年度事業計画並びに収支予算書の設定について
2．一般社団法人山口県病院協会
選挙告示について
3．選挙管理委員長の選任について
4．服務規程の一部改訂について

【承認事項】
1．令和2年度病院協会決算予測について
2．職員の採用について

【報告事項】
1．病院初級職員研修会開催について
2．県行政委員等の推薦について
・山口県社会福祉審議会委員
・山口県救急業務高度化推進協議会委員
常任理事　玉木　英樹　（再任）
・山口県救急業務高度化推進協議会委員
山口県済生会総合病院
副院長　小野　史朗　（再任）
・山口県医療安全推進協議会委員
理事　橋谷田　博　（新任）
3．県各種委員会等の結果報告について
三浦会長
・令和2年度第1回山口県医療対策協議会
（2月15日）
・第105回山口県医療審議会医療法人部会
（3月11日）
髙橋常任理事
・令和2年度山口県高齢者保健福祉推進会議
（第3回）　（2月18日）
玉木常任理事
・山口県救急業務高度化推進協議会・幹事会
合同会議　（2月18日）
村上理事
・山口県がん対策協議会がん登録部会
（1月20日）

【その他】
・県審議会、他団体役員会、行事等の出席確認について

お知らせコーナー

～事務局からのお願い～

病院の住所や理事長・病院長先生並びに事務長、診療科目・病床数などに変更があった場合は、当協会事務局までお知らせください。

なお、変更届の様式は協会ホームページ（http://www.yha.or.jp）より印刷することができます。

事務局人事について

３月31日　退職
事務局職員　石川　佳子
お世話になりました

４月１日　採用
事務局長見習　光永（みつなが）　将（まさる）
宜しくお願い致します

2021年４月から36協定届が新しくなります

労働基準法成功規則等の一部を改正する省令（令和２年厚生労働省令第203号）により、36協定届様式が改正されました。改正の内容は次の２点です。

①過半数代表者の適格性を確認するチェックボックスが新設されたこと

②使用者の押印及び署名が不要となったこと

新様式について詳細は、右に添付のＱＲコードより山口労働局ホームページをご確認ください。

病院協会の主な行事予定

○５月12日	第１回理事会	（会場：山口グランドホテル）
○５月26日	山口県病院協会定時総会	（会場：山口グランドホテル）
○６月10日	初級職員研修会	（会場：山口県総合保健会館）
○６月15日	第１回情報管理委員会	（会場：山口県総合保健会館）
○６月中旬	事務長部会総会・研修会	（会場：山口県総合保健会館）
○７月９日	第２回理事会	（会場：未　定）
○７月中旬	医療事務担当者研修会	（会場：未　定）

編集後記

◆今出川通銀閣寺橋から冷泉通若王子橋に至る小道、京都学派の哲学者西田幾多郎が散策、思索に耽ったところから「哲学の道」と称されています。毎年、疎水沿いに咲き誇る桜を見に行きたいという衝動に駆られますが、コロナ禍で自粛せざるを得ません◆この１年余り、当会報にも新型コロナウイルスに関する記事をたくさんいただきました。コロナに世界中が翻弄される大変厳しい状況が続きますが、このような緊急事態の場での立ち振る舞いにこそ、個人、組織の真の力量や覚悟の度合いが現れると考えます◆「人は人 吾はわれ也 とにかくに 吾行く道を 吾は行くなり（西田幾多郎）」。コロナを機に生き方や付き合い方も含め、断捨離に励んでいます。　（林弘人）